



地域資源の活性化と活用について

坂間 正昭 議員

西部地域の生活環境

問 これまで土沢地域では神奈川大学や農業技術センター、パークゴルフ場などの誘致や整備が行われてきたが、地域の活性化などには至っていない。スポーツやハイキング、農業体験など地域資源を掛け合わせた事業が展開できないか。

答 まちづくり政策部長 地域が主体となるのが重要であるので、地域のまちづくりに協議会の設立に向けて対応していきたい。

鳥獣被害対策

問 人家の庭や公道に野生の鳥獣が出没するなど、市民への被害が拡大している。本市が取り組む捕獲体制の強化と具体的な被害対策を伺う。

答 産業振興部長 集落環境整備、防護対策及び捕獲を、地域と一体で総合的に実施する必要があります。捕獲では、市民の要請に積極的に

対応するとともに、侵入防止柵設置後の鳥獣の動きを予想したわなの新設やわなの巡回強化、エサの工夫など、捕獲体制の強化に努めている。引き続き県やJA、農業者、地域住民と連携していく。

農福連携事業の実践

問 本市も農業と福祉の連

携の取り組みを進めてきた。実証実験から実施に向けた支援を行ってきたが、連携やマッチングなどの課題が多く、実用には至っていないと感じる。経過と現状を伺う。

答 産業振興部長 農家からの相談や登録を受け付ける窓口を農水産課に設置し、福祉事業所からの相談や登録を受け付ける窓口を障がい福祉課に設置した。登録情報や面談が共有し、実施に向けた調整やマッチングを行うが、現在まで登録はない。一方で、農家独自で農福連携に取り組む事例や、地域農家と連携した就労継続支援事業所の設立を目指す相談もあり、民間での取り組みも促進していく。

学力向上にむけて

諸伏 清児 議員

問 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえたこれまでの取り組みを伺う。

答 教育指導担当部長 教育委員会では、授業づくり推進員による公開授業や要請訪問、中学校計画訪問、ワンポイント研修などを実施し、授業力向上に努めている。

問 生活習慣や学習環境に関する項目もある。これまでの取り組みからどのような成果があったか。

答 教育指導担当部長 「自分にはよいところがあると思う。」という項目に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、これまでの調査の中で一番高い数値を示している。

問 生徒に自信が付いてきていると感じる。教員による分かりやすい授業への取り組みや授業づくりの成果であると捉えてよいか。

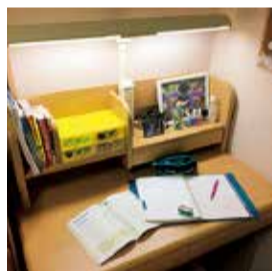
答 教育指導担当部長 学習や学校生活で自分の行っていることを認めてもらえることで自信につながり、授業

でも取り組みが意欲的になってきているところでも効果が出ていると考える。

問 「1日当たりの勉強時間が30分未満。」の項目は全国と比べて数値が高い。自分で計画を立てて家で勉強しているかについて、課題があるのではないか。

答 教育指導担当部長 授業以外の場面で自ら学習することは学力向上に大切であると考えるので、学習の方法を丁寧に教えていく。

問 中学校では、これから部活動の方針ができて時間



家庭学習は大切に

清風クラブ 所属議員



数田 俊樹 議員



須藤 量久 議員



片倉 章博 議員



黒部 栄三 議員

決算特別委員会の審査概要

9月定例会で継続審査とした29年度決算の認定などに関する議案について、9月26日と27日に開催した決算特別委員会で審査し、4案件は全て認定、可決すべきものと決定しました。主な質疑を紹介します。

一般会計・特別会計決算

○総務費 障がい者ワークステーション事業

問 「夢のタネ」のスタッフを増員し、スペースも広げた。平成29年度の取り組みを伺う。

答 文書の集配やデータ入力などの庁内業務の依頼を受けて、スタッフのビジネスマナーと能力の向上に努めた。また、就労支援として就労を前提とした実習やテクノフェアでのPRなどを行った。

○衛生費 母子保健事業

問 29年4月に子育て世代包括支援センターを開設したが、どのような相談があったか。また、どのような課題が見えてきたか。

答 未婚や若年で妊娠した人、生活困窮者、支援者がいない人、不安感が強い人などからの相談が多くあった。産後ケアや家事支援サービスなどの受け皿が少ないことが課題であると感じた。

○労働費 就労支援事業

問 市内大学生に市内企業への関心を高めてもらうために、どのような取り組みをしたか。

答 28年度に東海大学で行った就職応援講座を、29年度に神奈川大学でも開催した。また、神奈川大学を会場に東海大学の学生を含めて参加者を募集し、市内企業との交流会を開催した。7社が参加して、学生と意見交換が行われた。

○土木費 公園整備事業

問 龍城ヶ丘ゾーンの公園整備について事業者意見、提案を求めるマーケットサウンディングを実施した。その結果を住民へ説明した際、どのような意見が出たか。

答 違法駐車などの問題があるため早期に施設を整備してほしいという声があった。一方で、にぎやかすぎる環境になることや、自然や海の景観が壊されることが心配であるとの声があった。

○教育費 子ども自立生活支援センター内分校運営事業

問 29年度、センター内に金目小・中学校の分校を開校した。1年間運営して出た課題を伺う。

答 子供たちは感情をコントロールできないところもあり、トラブルが起こってしまったり、教職員が複数人で対応しなければならなかったりする。また、養護教諭が配置されていない状況である。

平塚市病院事業決算

問 患者が負担する医療費の未収金が29年度で約2千万円減少した。どのような対策をしたのか。

答 未収金の回収に当たる専任の担当者を配置した。また、入院時には高額療養費の制度をきめ細かく説明するなどして、負担が少なくなるよう相談を行っている。

下水道事業決算

問 下水道の管路は耐用年数の50年を超えるものがある。老朽化にどのように対応しているのか。

答 下水道台帳などから老朽度を推測し、老朽化が起因となって発生する損害リスクを考慮して点検調査の優先順位を付けている。カメラなどによる管路内調査を実施して老朽化を把握しているが、管路によって健全度が異なるため、耐用年数を超えても長く使える管とそうでない管を見極めて長寿命化計画を策定し対策をしている。